

## 令和2年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容

	公開期間	公開内容	公開作品
第1期	4月23日(木)～ 6月21日(日) 〔60日間〕	花咲く対面所 ～〈黒書院〉に描かれた春～ 〈黒書院〉一の間・二の間は、将軍と、高位の公家や徳川家に近い人物が、対面した場所とされます。その障壁画のテーマは2つあり、主として、長押の上には水墨による中国の風景が、長押の下には金地に色鮮やかな絵具で、日本の春の景色が描かれます。ここには、初春に咲く梅、満開の桜、晩春に咲く躑躅が描かれ、季節の推移を見ることができます。落ち着いた趣の風景と、華麗な春の花々の共演を、お楽しみください。	〈黒書院〉一の間障壁画《松柴垣禽鳥図》、〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《桜花雉子図》《楼閣山水図》
第2期	前期：7月16日(木)～ 8月24日(月) 〔40日間〕 後期：9月4日(金)～ 9月27日(日) 〔24日間〕	歴史の舞台〈大広間〉の対面所 前期：将軍が見た二の間 後期：将軍を取り囲む一の間 二の丸御殿の中心に位置する〈大広間〉には、幕府の権力を誇示するかのよう、一面の金地に巨大な松が何本も描かれています。その対面所は、御殿の最も公的な儀礼の場であり、徳川の栄光と終焉の舞台となりました。二の間は、将軍に対面する大名や外交使節らが控えただけでなく、寛永行幸の猿楽鑑賞の際には、後水尾天皇の観覧の座となりました。一の間は将軍の座です。大政奉還を決意した十五代将軍慶喜は、ここで各藩の重臣たちと対面しました。前後期を通じて、歴史の舞台を体感していただけます。	前期：〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図》 後期：〈大広間〉一の間障壁画《松竹錦鶏図》《花卉図》《水仙図》
第3期	10月8日(木)～ 12月6日(日) 〔60日間〕	秋の景物 ～〈白書院〉障壁画選～ 〈白書院〉の中から、秋の景物を描いた障壁画を展示します。将軍の居室であった〈白書院〉は、一の間から四の間まで水墨画が描かれています。二の間と三の間の西側には、落雁や枯れ始めた芦などの秋の景物を背景に、中国風の人物が小さく描かれています。一方、帳台の間は、長押下の壁には、金色の柴垣と萩や竜胆などが、長押上の壁には、石竹や小菊の咲く薄野原が色彩豊かに描かれています。豪華絢爛な障壁画が有名な二の丸御殿ですが、その奥に潜む繊細可憐な〈白書院〉障壁画の世界をお楽しみください。	〈白書院〉二の間障壁画《西湖図》、 〈白書院〉三の間障壁画《山水人物図》、〈白書院〉帳台の間障壁画《秋草図》
第4期	12月21日(月)～ 令和3年2月21日(日) ※12月29日～31日は休館 〔60日間〕	松と浜松 ～〈黒書院〉三の間の障壁画～ 〈黒書院〉三の間は、将軍と対面する人物が、対面所に入る前に控えた部屋と考えられています。この部屋の障壁画は、長押の上に、松が林立する浜辺が、長押の下には、松とともに、夏から冬へと移り変わる季節の景が描かれます。筆者とされる、狩野尚信(1607-50)は、当時20歳。ベテラン絵師のサポートを受けながら、障壁画を描き上げたと言われています。若き尚信が描き出した、繊細かつ静謐な、松のある風景を、御覧ください。	〈黒書院〉三の間障壁画《松図》 《浜松図》